

2018年 相模原市市民協働でのモニタリング調査概況

モニタリング実施地および生物種の概況

- ・7 調査者による 10 か所のモニタリング結果を公開している。対象種は、各団体が注目し、定期的な観察、手入れにより見守っている種を任意に選定している。
- ・定期的な株の計数や観察を行うことができる、植物と鳥類を中心に今年の生育・生息状況が報告されている。
- ・植物はアマナやアズマイチゲ、ヒメニラなどの雑木林の環境を好む早春植物のほか、キンラン、ギンランなどの野生ラン、ヤマユリやキツネノカミソリなどの花がよく目立つ山野草に注目している。また、相模川の河川敷では地域を象徴する絶滅危惧種であるカワラノギクと、その生育環境が競合する恐れのある特定外来種のおオキンケイギクやシナダレスズメガヤについてもモニタリングされている。
- ・鳥類はツミやオオタカなどの猛禽類、キビタキやアオゲラなど注目が集まりやすい種について、繁殖状況に着目しているほか、特定外来生物に指定されているワカケホンセイインコの生息状況も報告されている。

モニタリング結果の概況

- ・本年度は初年度ということもあり、概況を報告しているものが多いものの、すでにモニタリングを長年にわたり実施している保全緑地などは、昨年までとの比較も行っている。それによると、増加傾向が見られたものとして、アマナ（橋本、古淵など）やキンラン（木もれびの森など）、アズマイチゲ（上鶴間など）があり、減少傾向が見られるものとしてヤマエンゴサク（橋本）などがある。ただし、ヤマエンゴサクは上鶴間では環境整備を行ったエリアについては増加しているとあり、そうした整備作業の成果についても報告されている。全体的に、林床の刈払いなどの手入れによって増加傾向に転じたことが多く報告され、各調査地点においてそうした知見が蓄積され、管理が実行されていることが読み取れる。
- ・キンランについては木もれびの森で開花数の顕著な増加が見られた。環境整備など特に実施していない場所でも増えており、原因は今のところ不明であるが、この5年間ほど、市域周辺で大発生しているキアシドクガによるミズキ類の食害と関連する可能性がある。
- ・相模川のカワラノギクについては保全圃場とその周辺以外では、自生による生育地の維持が困難な状況にある。近年の豪雨や台風に伴う高水の頻発もあり、こうしたモニタリングによる経年的な生育状況の把握は重要である。
- ・鳥類については今後、猛禽類のようなアンブレラ種の繁殖状況が把握されることで、生態系の評価につながるものと考えられる。一方、特定外来種の分布状況も、営巣環境などが在来種と競合する可能性もあり、注視していきたい。